

学習指導案 8 / 9

(1) 指導目標

音楽の仕組みを生かして、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、つくる音楽やその方法について自分の思いや意図をもつことができるようにする。

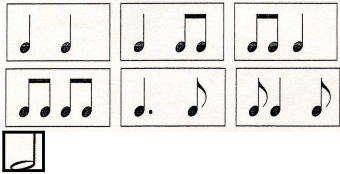
(2) 展開

過程	学習活動	教師の指導 (○)・支援 (●)・発問 (★)	評価規準と評価方法
導 入 / 展	1 学習内容を知る。 (1) 前時の学習を振り返る。 (2) 本時のめあてをつかむ。	○前時の旋律づくりを振り返らせ、本時の学習に対する意欲付けをする。 ○イメージに合った旋律をつくるためにリズムを工夫するという目的意識をもたせる。	
	2 活動の見通しをもつ。 (1) リズムの工夫の仕方に見通しをもつ。	○全体でリズムの工夫を試し、リズムの工夫の仕方に見通しをもつことができるようにする。  <b>★「明るく、どんどん楽しくなる」音楽にするために、二分音符をどのようなリズムに変えたらよいでしょう。</b>	
開	(2) まとまりのある旋律をつくるコツを確認する。	○既習のまとまりのある旋律をつくるコツを確認し、これを本時の「音楽づくりの約束事」とすることを伝える。	
	(3) 活動の流れを確認する。	○活動の流れや時間の目安を板書し、見通しをもって主体的に活動ができるようにする。	
	3 リズムを工夫する。 (1) 旋律のリズムを工夫する。	○二人で活動させることで、演奏を聴き合いながら、互いに感想や助言を伝え合い、リズムのイメージに合うような旋律をつくることができるようにする。	

つくった旋律のリズムを工夫しよう。

**【まとまりのある旋律にするためのコツ】**  
 ・反復する小節をつくる。  
 ・変化する小節をつくる。  
 ・全ての二分音符を変化させる必要はない。  
 ・4小節目は全音符にする。

**【活動の流れ】**  
 ① 旋律のリズムを工夫する。  
 ② 和音伴奏に合わせて演奏しながらリズムを工夫する。  
 ③ つくった音楽にタイトルを付け、工夫したことを書く。  
 ④ 全体で交流する。

展	使用するリズムカード		<ul style="list-style-type: none"> <li>○リズムカードを使ってリズムを工夫させることで、即興的にいろいろなパターンを試しながら音楽づくりができるようにする。</li> <li>○リコーダーや鍵盤ハーモニカで演奏を試しながらリズムを工夫するように声を掛ける。</li> <li>●演奏しながらの工夫が難しいペアに対しては指導者が演奏して聴かせ、イメージをつかませるようにする。</li> </ul>	伴奏① 練習室 伴奏② 音楽準備室
	(2) 和音伴奏に合わせて演奏しながら工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○イメージに合った演奏ができるように、2つのパターンの和音伴奏を聴きながらリズムの工夫ができるようにする。</li> <li>●他のグループと交流する中で得た工夫を取り入れるように助言する。</li> <li>●リズムの工夫ができない児童に対しては、二分音符のままでよいことを伝える。</li> </ul>	音楽の仕組みを生かして、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、つくる音楽やその方法について自分の思いや意図をもっている。  <b>【創③ 演奏聴取・ワークシート】</b>	
開	(3) つくった音楽にタイトルを付け、工夫したことを書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○つくった音楽にタイトルを付けさせることで、思や意図を表現の工夫と関連付けることができるようにする。</li> </ul>		<b>★音楽にタイトルを付けましょう。</b>
	4 全体で交流する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○2つの音楽を比較聴取させ、タイトル当てクイズを行うことで、思いや意図を表現の工夫と関連付けて聴取できるようにする。</li> </ul>	<b>★今から紹介する2曲の音楽のタイトルは、「目覚まし時計」と「広い草原」です。どちらが、どのタイトルだと思いますか。また、なぜ、そのタイトルだと思いましたか。</b>	
／ ま と め	5 学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分たちでオリジナルの音楽をつくることのできたことを称賛し、音楽づくりに自信をもたせるようにする。</li> <li>○次時の学習内容を知らせ、意欲付けをする。</li> </ul>		

〈評価規準と評価方法〉

音楽の仕組みを生かして、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、つくる音楽やその方法について自分の思いや意図をもっている。【創③ 演奏聴取・ワークシート】		
十分満足 (A) と判定する目安	おおむね満足 (B) と判定する目安	<ul style="list-style-type: none"> <li>●演奏しながらの工夫が難しいペアに対しては指導者が演奏して聴かせ、イメージをつかませるうにする。</li> <li>●他のグループの児童が書いた工夫についての発表内容やワークシートの内容を参考にさせる。</li> </ul>
タイトルとリズムの工夫が合っていて、それらの関連を和声の響きや音楽の縦と横の関連と関連付けてワークシートの「工夫したこと」に書いている。	タイトルとリズムの工夫が合っていて、それらの関連をワークシートの「工夫したこと」に書いている。	